

## 施設見学会のご報告

令和8年2月25日

報告者 藍 衛

この度、火葬技術管理士会では鹿児島市にて施設見学会を実施しました。今回訪問した火葬場は、鹿児島市北部斎場と鹿児島市南部斎場です。両斎場とも指定管理者制度により運営されており、指定管理者である富士建設工業株式会社様には、今回の見学会に際し多大なるご協力をいただき、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。また、今回は理事メンバーのほか一般会員など5名が参加し、総勢10名と参加者も年々増加しています(昨年度7名、一昨年度5名)。管理士会では、引き続き有意義な施設見学会を実施してまいりますので、是非ご参加頂ければと思います。以下に各斎場の特色を紹介します。

### <鹿児島市北部斎場>

北部斎場は鉄筋コンクリート造りの平屋建て、火葬炉13基、式場1室を有する大規模斎場です。中庭に庭園を配置するなど、景観にも配慮されています。広い館内はスムーズな動線がとれるよう、火葬炉、収骨室、待合室が直列に並んで配置されています。館内に大きな段差もなく、バリアフリーに配慮した造りとなっています。



### <鹿児島市南部斎場>

南部斎場は鉄筋コンクリート造りの2階建て、火葬炉8基を有する斎場です。建物は宮殿を思わせるような凝ったデザインとなっており、館外及び館内から見える桜島の景観が印象的です。バイパスのインターの間近にあり、非常に交通の便の良い立地となっています。



両斎場は市の施設ということもあり、市民の声を重視しており、会葬者の心情に配慮した工夫や、快適に利用していただくための取り組みがいくつも見受けられました。このような工夫や取り組みをいくつか紹介します。

- ・火葬待ちの会葬者のために本棚やマガジンラックを設け、雑誌や子供向けの本を常備し、毎月更新している。また、物品販売所を設置し、障がい者就労施設で製作された雑貨類を販売している。
- ・炉内台車上のロストルが目につかないよう、白い紙のカバーを被せている。
- ・火葬終了後、炉前ホールから収骨室に移動する際、お骨が他の会葬者の目に触れないよう、骨受皿上のお骨にステンレス製の蓋を被せている。
- ・ご遺骨の誤渡し防止のため、火葬開始ボタンをご遺族が押したのち、火葬開始ボタンのあるスイッチボックスのカギをご遺族に預けることとしている。
- ・死産児の火葬の際は、レンガでご遺体を囲い、高さの低いロストルを使用するなど、なるべくお骨が残るような工夫をしている。
- ・ブランケット、靴のかかどが外れた際の修理用ボンド、生理用品等を準備しており、会葬者に貸し出している。

まだまだ書ききれないほどの学びがありました。本年 10 月に埼玉県にて開催を予定している日本火葬フォーラムでは、さらに詳しく報告する予定ですので、そちらもご期待いただければと思います。

